

事業所名	グループホーム ひなぎく (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成21年 3月31日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいづくりアドバイザー B:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) ・小高い山の中腹にグループホームはあり、グループホームまでの坂道には桜並木が続いている。少し足を延ばせば、市民の憩いの場となっている公園があり、四季折々の変化を感じながら生活ができる。グループホームの周辺は交通量が少なく、静かな環境であり、グループホームからは、水島工業地帯や住宅地、緑地公園等も一望できる。 ・母体法人は、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンターを併設した複合的な福祉施設として地域の高齢者介護に携わっており、重度化した場合や軽減した場合等、相互の介護力や機能を活かした取り組みが行え、家族にとっても安心が得られる。 ・加齢や重度化に伴い、日常的に行ってきた散歩等の活動も、現在では困難になってきている。しかし、少しでも外の空気に触れる機会を提供するという職員の姿勢は変わらず、一緒に買い物に出かけたり、周辺を散歩したり、天気の良い日はドライブに出かけたり、外で日向ぼっこや食事をする等、入居者の活動を支援している。 ・サービスの質の向上に向け、法人内で研修会を頻繁に開催している。すべての職員が外部の研修にも参加できるよう出張扱いにする等職員の知識や技術の習得を法人としても推進しており、法人全体で介護水準が高められるように取り組んでいる。 ・地域との交流を積極的に図っている。法人の夏祭り、秋祭り、お餅つき等には地元住民やボランティアに来てもらったり、地域の夏祭りや中学生の運動会見学などに参加させてもらったりして、地域住民と触れ合う機会を作っている。また、グループホームの管理者同士が、お互いの運営推進会議に参加して情報交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
・災害対策として、法人全体での協力体制を整え、スプリンクラーの設置も予定している。ただ、平成20年度に関しては、避難訓練・消防訓練の実施には至っていない。災害時にスムーズに避難できる方法を平素から身につけておくためにも、定期的な訓練を実施し、地域へもスムーズに協力が得られるように働きかけていかれることを希望する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ・「入居者一人ひとりに合わせた、生きがいと安心のある生活」をめざし、次のような取り組みを行っている。 ・*毎日のレクリエーションや行事は、個人向けや少人数向けなど、多様化させた内容を工夫する。 ・*家庭の味で温かく、個々のニーズにあった食事を提供する。 ・*認知症に対する知識・理解を深め、入居者に安心の援助を提供する。 ・*家族との連携を密にしなが、入居者一人ひとりを尊重した暮らしを維持する。 ・法人全体では、「笑顔であいさつ」など、月毎の目標を決め、取り組んでいる。 ・開所当初に比べると、加齢に伴う身体機能や認知機能の低下により、活動範囲・生活スタイルは変わりつつある。坂道を上がり下がりして散歩したり、みんなで自発的におしゃべりをしたり笑い合ったりということができなくなりつつある。しかし、職員は入居者が関心・興味を持つような活動を工夫したり、一歩でも遠くへ、一歩でも外へ出かけられるようにとの思いで、買い物、ドライブ、散歩、戸外での行事を探り入れている。また、地域とのふれあいを大切に、交流の機会を作っている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ・新しく入居された方が集団での生活に不安を感じ、混乱に陥らないよう、できるだけ職員が側について入居者の話をよく聞き、リビングに誘う等して一人で過ごすことがないように配慮している。 ・感情の起伏が激しくなり、落ち着かない場合には、好きな作業に取り組んでもらったり、ドライブに誘ったり、声をかけ過ぎることで余計に落ち着かなくなる時にはしばらく静観する等、その時々々の状況を見極めながら対応している。 ・他の入居者が不公平感を抱かないように、声をかける頻度や関わり方を工夫している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ・入居者一人ひとりの経験や力が活かせるように、入居者が出来るようなことを見つけ、日々の生活の中で役割として持ってもらう、また、趣味の活動ができるよう、環境整備に努めている。黒豆を煮るのが得意な方には、お正月のおせち作りを手伝ってもらい、縮み物や縫い物が得意な方には、楽しみながら取り組める機会を作っている。 ・個人のプライバシーに配慮し、居室入口には氏名ではなく、花の名前のプレートを付けている。面会簿は、カード形式にしている。個人のことを話す時には、他者に聞かれないよう居室で話そうように心がけている。また、排泄や入浴など、他者に見られたくない部分には特に配慮をし、小声で話すなど周りに気づかれないように配慮している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策		○
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ・法人として、介護サービスの質の向上に向けて、外部の研修会や法人内の研修会への職員の参加を推進しており、職員は介護知識や技術の習得に努めている。職員の希望やバランスを考慮しながら、外部研修にも出張扱いとして多くの職員が参加できるようにしている。研修内容については、報告書を提出している。法人内では、必須研修と任意の研修がそれぞれ年に2～3回ずつあり、終了後はアンケートで感想を提出している。 ・派遣職員に対しても、オリエンテーション、マニュアルの説明、OJTを実施し、介護に取り組む姿勢を一つにしている。 ・ヒヤリハットや事故報告書があり、発生時には職員間で再発防止に向けて対策を話し合っている。ヒヤリハットのデータを集めやすいように、現在、報告書の書式を検討中である。今後は、集められたデータを集積し、分析していくことも予防対策として有効であると考えられる。		